

住民×議会 みんなで未来を語る会 報告書

開催日時 令和8年8月21日（金）19時00分～

開催場所 若狭町役場三方庁舎3階

テーマ	10年後も住み続けたい若狭町（まちの未来について）
出席議員	川島富士夫議員 久保幸子議員
参加者数	6人
課題	移動・暮らし：車がないと、町内外の通院、買い物、友人との交流が難しく、暮らし続けることへの不安がある。 健康・つながり：高齢化により外出や交流の機会が減り、フレイルや孤立が懸念される。地域活動の担い手も不足している。 農地の継承：耕作放棄地が増える一方、所有者と耕作希望者を結ぶ情報や支援が十分でない。 仕事・挑戦：豊かな自然や地域資源が、事業・仕事・商品に十分結び付いておらず、挑戦後の継続支援も不足している。
意見・方向性等	【意見】 1 車がなくても暮らせる交通：通院・買い物に加え、交流や社会参加も支える地域交通を整える。 2 健康と人のつながり：フレイル予防、交流の場、ボランティア活動を結び、誰もが地域で役割を持てる仕組みをつくる。 3 農地を次世代へつなぐ：耕作放棄地への支援と、所有者・耕作希望者のマッチング、営農相談を一体的に進める。 4 地域資源から仕事を生み出す：自然や農林水産物を生かして事業に挑戦する人に、経営相談、商品開発、販路開拓等を2～3年間伴走支援し、地域の経営者を育てる。 【全体の方向性】 まず住んでいる人の満足度を高める。その積み重ねを「住み続けたい町」から「帰ってきたい町」「挑戦したい町」へつなげる。

『10年後も住み続けたい若狭町』

解決策

- 。車がなくても住みやすい町作り
- 。世代を超えたコミュニティ作り
- 。挑戦しつづける町作り

- 。高齢者の生活支援
- 。若者の生活支援
- 。子育て支援
- 。高齢者の生活支援
- 。若者の生活支援
- 。子育て支援
- 。高齢者の生活支援
- 。若者の生活支援
- 。子育て支援

現状

。耕作放棄地が多い

。住民どうしのつながり
不十分

。地域交通
デマンドタクシーは使いにくい

- 。高齢者の生活支援
- 。若者の生活支援
- 。子育て支援
- 。高齢者の生活支援
- 。若者の生活支援
- 。子育て支援
- 。高齢者の生活支援
- 。若者の生活支援
- 。子育て支援

- 。高齢者の生活支援
- 。若者の生活支援
- 。子育て支援
- 。高齢者の生活支援
- 。若者の生活支援
- 。子育て支援
- 。高齢者の生活支援
- 。若者の生活支援
- 。子育て支援